町村週報

（町村の購読料は会費の中に含まれております）

3170号

毎週月曜日発行

発行所　全国町村会　〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486　FAX03-3580-5955

発行人　武居丈二：定価1部40円・年間1,500円（税、送料含む）　振替口座00110-8-47697　http://www.zck.or.jp

沼田町夜高あんどん祭り（北海道沼田町）

もくじ

政策　新たな森林・林業基本計画について ～持続性と成長を両立させる時代へ～ …(2)

フォーラム　あの日から立ち止まることなく復興と再生のこの10年＝岩手県山田町……(6)

情報　町村ご当地キャラじまん……(10)

随想　しっかりと地に足をつけて持続可能なまちへ…京都府精華町長　杉浦　正省…(11)

コラム

「予約」するということ

～観光の新たな行動様式～

國學院大學教授　梅川　智也

これまで予約といえば、病院、新幹線、飛行機・・・、たまに人気のレストランか、といった私のような方も多いのではなかろうか。しかしながら、コロナ禍を契機に、観光施設をはじめ神社仏閣、美術館や博物館、スポーツ観戦などで「予約制」が一気に普及した。感染拡大防止のため密閉、密集、密接の三密を避けたい施設側の意向とシステム開発が上手く適合した結果と言える。

自らの貴重な〝時間〟と〝金〟を使って出掛ける個人旅行の特権は、行きたいときに行き、食べたいときに食べ、観たいときに観るという自由さ、気楽さにある。それこそが業務出張とは異なる個人旅行の大切な価値であろう。だが、無計画で気ままな行動は、ときには利用の集中を生むだけでなく、提供されるサービスの高付加価値化を妨げていたことに思い至った。

観光にとって最大の課題は「平準化」である。季節変動、曜日変動、天候変動という三重苦の需要変動の上で成立しているのが日本の観光産業である。製造業などに比べて生産性が低いと言われるのはこの需要変動によるところが大きい。いかに平準化させるかは業界が抱える宿命とも言える。

特定の時期、特定の場所に利用者が集中し、オーバーツーリズムという観光の負の側面が問題視されることが多い。しかし、予約制の導入によって一つの有効な解決策が提示されたとも言える。〝混雑度を見える化〟することで、利用者自らが混雑回避行動を選択するとともに、逆に利用者が少ないとき、施設側は特別な企画などを用意して利用促進を図ることができる。これが年間を通じた平準化に繋がっていく。そして、需要のコントロールだけでなく、一定の利用者属性が事前に入力されることによって、いつどういう人が来訪するのかがある程度想定でき、顧客管理はもちろんのこと、提供するサービスの付加価値を高めることができるようになる。

こうした予約制の導入は、利用者にとって、施設側や関係する事業者にとって、受け入れる地域やコミュニティにとって〝三方よし〟の施策となりうる。新型コロナウイルスを契機として平準化と高付加価値化いうわが国特有の観光課題解決の糸口が見出せたことは不幸中の幸いであろう。「事前に予約を！」という新しい観光行動の様式が今後さらに定着していくことが期待される。

写真キャプション

沼田町夜高あんどん祭りは、「北海道三大あんどん祭り」と称される、北海道を代表するあんどん祭りのひとつ。高さ7m・長さ12m、重さ5tを誇る、巨大な大型あんどん同士の迫力あるぶつけ合いが、夜のクライマックスを飾る。また、夜高踊りパレードやまつりを盛り上げる夜高太鼓、沼田町内を賑やかに練り歩く大小十数基のあんどんにも注目。

政　策

新たな森林・林業基本計画について
～持続性と成長を両立させる時代へ～

林野庁林政部企画課

1　はじめに

令和３年６月15日、新たな森林・林業基本計画（以下「基本計画」という。）が閣議決定された。基本計画は、森林・林業基本法に基づき、森林・林業に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために政府が策定し、おおむね５年ごとに変更することとされている。

前計画では人工林資源が本格的な利用期を迎えたことなどを背景に、「林業・木材産業の成長産業化」を掲げ、施策を推進してきた結果、林業産出額や従事者給与の増加など一定の成果が生まれている。一方、主伐後の再造林が十分に進んでいないことや林業従事者の減少などの課題に直面しており、さらには、２０５０年カーボンニュートラルの実現に向けた森林吸収量の確保・強化、新型コロナウイルス感染症等による不透明な木材需給への対応などに向けた取組の強化も求められている。

こうした課題や情勢変化に対応していくものとして、新たな基本計画の内容が検討され、策定に至った。本稿では、特に市町村行政に関わる内容に重点を置いて、新たな基本計画の概要をご紹介したい。

2　森林及び林業をめぐる情勢変化等を踏まえた対応方向

新たな基本計画では、前述の課題や情勢変化を踏まえ、森林を適正に管理し、林業・木材産業の持続性を高めながら成長発展させることで、社会経済生活の向上と２０５０年カーボンニュートラルに寄与する「グリーン成長」を実現していくことを基本的な方針とし、

①再造林の確実な推進等による森林資源の適正な管理及び利用

②伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新し

図１　新たな基本計画の基本的な方針

新計画　**森林・林業・木材産業による「グリーン成長」**

森林を適正に管理して、林業・木材産業の持続性を高めながら成長発展させることで、2050カーボンニュートラルも見すえた豊かな社会経済を実現

○ 森林資源の適正な管理・利用
- 適正な伐採と再造林の確保（林業適地）
- 針広混交林等の森林づくり（上記以外）
- 森林整備・治山対策による国土強靱化
- 間伐・再造林による森林吸収量の確保強化

○「新しい林業」に向けた取組の展開
- イノベーションで、伐採→再造林保育の収支をプラス転換（ｴﾘｰﾄﾂﾘｰ、自動操作機械等）
- 林業従事者の所得と労働安全の向上
- 長期・持続的な林業経営体の育成

○ 木材産業の国際＋地場競争力の強化
- JAS乾燥材等の低コスト供給（大規模）
- 高単価な板材など多品目生産（中小地場）
- 生活分野での木材利用（広葉樹家具など）

○ 都市等における「第２の森林」づくり
- 都市・非住宅分野等への木材利用
- 耐火部材やCLT等の利用、仕様設計の標準化
- 木材製品の輸出促進、ﾊﾞｲｵﾏｽの熱電利用

○ 新たな山村価値の創造
- 地域資源の活用（農林複合・きのこ等）
- 集落の維持活性化（里山管理等の協働活動）
- 森林サービス産業の推進、関係人口の拡大

【分野横断】ﾃﾞｼﾞﾀﾙ化・新型ｺﾛﾅ対応・東日本大震災からの復興、みどりの食料ｼｽﾃﾑ戦略と調和

政　策

い林業」に向けた取組の展開

③品質や性能の確保や実需者のニーズへの対応等による木材産業の競争力の強化

④中高層や非住宅の建築物での新たな木材需要による都市等における「第２の森林」づくり

⑤森林を活用した産業の創出などによる新たな山村価値の創造

の５つの柱で施策を展開していくこととしている（【図１】参照）。

３　新たな基本計画における目標

基本計画では、森林・林業基本法に基づき、森林の整備及び保全、林業・木材産業等の事業活動や林産物の消費に関する指針として、２つの目標を定めている。

(1)森林の有する多面的機能の発揮に関する目標

多様な森林がバランス良く賦存する「指向する森林の状態」に向け、育成単層林のうち、林業に適した場所では、これを維持する一方で、それ以外では育成複層林化を図る。あわせて、天然生林を適切に維持するなどにより見込まれる５年後、10年後、20年後の状態を目標として設定している（【表１】参照）。

(2)林産物の供給及び利用に関する目標

望ましい森林の整備・保全が行われた場合の木材（国産材）供給量や、今後の需要動向を見通した上で、諸課題が解決された場合に実現可能な木材利用量を目標として設定している。今回、木材供給量については、２０１９年の31百万㎥に対して、２０３０年には11百万㎥増加させ、現状の１・４倍である42百万㎥まで拡大することを目指している（【表２・３】参照）。

４　森林及び林業に関し、政府が総合的かつ計画的に講ずべき施策

基本計画では、前述の「対応方向」や「目標」に沿った内容で、政府が講ずべき施策を記載しており、ここでは、その概要を紹介する。

(1)森林の有する多面的機能の発揮に関する施策

多様で健全な森林を育成していくため、再造林の促進に向けて、新たに、特に植栽による更新に適した区域の設定や、森林資源の保続が可能な主伐量の上限の検討等を進めると

表１　森林の有する多面的機能の発揮に関する目標

	2020年（現況）	目標とする森林の状態			指向状態（参考）
		2025年	2030年	2040年	
森林面積（万ha）					
育成単層林	1,010	1,000	990	970	660
育成複層林	110	130	150	190	680
天然生林	1,380	1,370	1,360	1,340	1,170
合　　計	2,510	2,510	2,510	2,510	2,510

表２　木材供給量に関する目標

	2019年（実績）	2025年（目標）	2030年（目標）
木材供給量（百万㎥）	31	40	42

表３　用途別の利用量の目標

（単位：百万㎥）

用途区分	総需要量			利用量		
	2019年（実績）	2025年（見通し）	2030年（見通し）	2019年（実績）	2025年（目標）	2030年（目標）
建築用材等　計	38	40	41	18	25	26
製材用材	28	29	30	13	17	19
合板用材	10	11	11	5	7	7
非建築用材等　計	44	47	47	13	15	16
ﾊﾟﾙﾌﾟ・ﾁｯﾌﾟ用材	32	30	29	5	5	5
燃料材	10	15	16	7	8	9
その他	2	2	2	2	2	2
合計	82	87	87	31	40	42

ともに、適正な伐採と更新の確保を図るべく、伐採造林届出制度の見直しとそれに基づく指導等を強化する。また、森林の経営管理の集積に向けて、引き続き、森林境界の明確化や、森林経営管理制度に基づく取組を促進する。さらに、同制度と森林環境譲与税の活用による針広混交林化を図るとともに、天然生林の保全管理を推進する。

また、短時間強雨の発生頻度の増加等により、山地災害などが激甚化する傾向にあることを踏まえ、森林整備・治山対策による国土強靱化に取り組む。

カーボンニュートラルの実現に向けては、適切な間伐等の実施、保安林指定による天然生林等の管理・保全などに引き続き取り組むとともに、中長期的な森林吸収量の確保・強化を図るため、エリートツリー等の再造林を促進する。また、木材利用を進めることで二酸化炭素の排出削減に貢献していくとともに、ＨＷＰ（伐採木材製品）による炭素の貯蔵を図る。

さらに、山村地域の移住・定住促進のため、地域内での経済循環を生み出すべく、森林資源を活用した産業の育成や所得確保の機会を創出するとともに、里山林の保全等の協働活動を促進する。また、森林空間を活用した「森林サービス産業」を推進し、関係人口の拡大を図る。

⑵林業の持続的かつ健全な発展に関する施策

これからの林業経営の目指すべき姿として「長期にわたる持続的な経営」を掲げ、具体的には、

①長期間経営し得る権利等の取得及び施業地の集約化などによる事業量の確保

②森林組合間の事業連携や、その他林業経営体の法人化・協業化、森林経営プランナーの育成等による経営力の強化

③再造林の実施体制の整備

④自主行動規範の策定や伐採造林届出制度等の活用による社会的責任を果たす取組の推進

に取り組むことができる林業経営体の育成に向けて施策を重点化する。

また、林業の生産性や安全性を抜本的に改善するため、従来の施業等を見直し、新技術を活用して、伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」を展開することとし、具体的には、

①ドローンやエリートツリー等を活用した造林コストの低減や収穫期間の短縮

②遠隔操作機械等による林業作業の省力化・軽労化

③レーザ測量やＧＮＳＳを活用した高度な森林関連情報の把握

④ＩＣＴを活用した木材の生産流通管理の効率化等を推進する。

さらに、こうした取組を通して、林業従事者の所得と労働環境を向上させ、人材の育成・確保等を図るとともに、今後10年を目途として林業の死傷年千人率を半減させることを目指して労働安全対策を強化していく。

加えて、山村に住む人々の収入確保に資する特用林産物の生産基盤の整備や、生産販売に係るノウハウの情報提供などを推進する。

⑶林産物の供給及び利用の確保に関する施策

原木の安定供給に向け、林業経営体の育成を通じた事業量の確保、ＩＣＴによる木材の生産流通管理システムの導入等を進めるとともに、地域におけるＳＣＭに係る取組を促進し、川上から川下の情報共有による需給ギャップの解消とマッチングの円滑化、相互利益の拡大を図る。

また、木材産業の競争力強化に向け、大規模工場については、外材等に対抗できる品質・性能の確かな国産材製品を低コストで安定的に供給できる体制を整備し、国際競争力を向上させる。中小地場工場等は、地域の多様なニーズに柔軟に応える多品目製品の供給等により、地場競争力の向上を図る。

さらに、木材利用の促進に向けて、特に都市等における中高層建築物や非住宅分野での木材需要の獲得を目指す。このため、防耐火や構造計算に対応できる木質耐火部材やＣＬＴ等の開発・普及、部材の仕様の標準化等を進める。また、品質・性能の確かな木材製品を供給していくために、ＪＡＳ製品が生産・利用されやすい条件整備等を進める。そのほか、付加価値の高い木材製品の輸出を推進するとともに、木質バイオマスについては、森林資源の保続を担保したうえで、エネルギー効率の高い熱利用・熱電併給につき地域内での利用を推進する。

⑷国有林の管理及び経営に関する施策

国有林については、国自らが責任を持って管理経営し、その組織・技術力・資源を活用して民有林に係る施策を支え、森林・林業施策全体の推進に貢献していく。具体的には、木材の安定供給や林業経営体の育成の観点から、需要先との協定取引や、

政　策

民有林から出材されにくい大径長尺材等の供給、まとまった事業発注・供給方式を通じた事業量の安定化等に取り組む。また、国有林野のフィールドを活用して、低コスト造林技術や野生鳥獣害対策、先端技術を活用した森林管理・木材生産手法の開発・実証等を推進する。

加えて、国民の意見の把握を通じた対話型の取組のほか、多様な主体との連携、国立公園等と連携した取組等を推進し、国有林野の保護と利用の両立を図る。

(5)その他横断的に推進すべき施策

森林・林業の分野においても、森林関連情報の把握、森林資源の造成、木材の生産流通等の各段階でデジタル技術を適用した効率的なものへと転換していく。

新型コロナウイルス感染症への対応としては、状況に応じて、林業・木材産業の経営の継続、需要の喚起等の施策を講じていく。また、急激な木材の需要減退時には、生産調整を円滑に行えるよう、再造林の実施体制の整備等を図るほか、国有林材の供給調整等を行う。さらに、リフォーム需要や、山村地域への関心の高まりなど、新たな需要を取り込む施策を展開していく。

5　おわりに

新たな基本計画のキーワードである「持続性」の核となるのが、再造林を通じた我が国の森林資源の確保である。このことは、単に森林所有者の問題としてだけではなく、川上・川中・川下のサプライチェーンを構築する者全体の問題として、それぞれの相互利益を拡大しつつ、再造林につなげるとの視点を共有し、努力していくことが重要であり、今回、その旨を初めて基本計画本文に明記した。

今後は、新たな基本計画に基づく施策の着実な実施に向け、令和４年度概算要求や制度の改正等に取り組んでいく。

将来にわたって持続的な森林・林業・木材産業を実現していけるよう、関係者の皆様にもご理解とご協力をお願いしたい。

基本計画の詳細や関連資料については、林野庁のホームページをご覧ください。

https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/plan/

（担当者）林野庁林政部企画課　宮脇・古賀
（連絡先）03-3502-8036

町村専用ページ「町村.com」をご覧になっていますか

http://www.zck.or.jp/choson/

全国町村会では、全国の町村との連携を密にし、町村長と町村職員のみなさんの情報収集の利便性を向上させるため、町村専用ページ「町村.com」を開設しています。

「町村.com」では、全国町村会の活動状況や中央省庁などの政策情報を随時ご提供しているほか、全国の町村の先進的な取り組み事例をはじめ、各種統計資料など様々なデータも公表しています。

私どもは、「町村.com」が町村関係者にとって真に役立つホームページとなることを目指し、これからも充実をはかっていきたいと考えています。ご覧になったご感想・ご意見を、下記のメールアドレスにお寄せください。

kouhou@zck.or.jp

・「町村.com」は、町村関係者の方だけがご利用いただける専用ページです。
ご覧になる際は、所定のパスワードが必要になります。

・ユーザー名とパスワードは、各町村にお知らせ済み（平成18年9月27日付）ですが、お問い合わせは、全国町村会広報部（kouhou@zck.or.jp）までお願いいたします。

現地レポート　町村独自のまちづくり

あの日から立ち止まることなく復興と再生のこの10年

養殖いかだが並ぶ山田湾

岩手県 山田町（やまだまち）

リアス海岸と広大な山林

山田町は三陸海岸のほぼ中心に位置する人口約1万5、000人の町です。面積は、約263㎢。平地部は極めて少なく、大半を山林原野が占めています。沿岸はリアス海岸特有の地形を有し、ブナやスギなどの森林に覆われた船越半島を挟んで、北側に山田湾、南側に船越湾が広がっています。

年間の平均気温は11・6℃、降水量は約1、585㎜（いずれも過去5年分の平年値）。沖合で寒流の親潮と暖流の黒潮などが混じり合い、西方を縦走する北上山地の影響を受けるため、県内陸部と比べ降雪量が少なく冬は比較的暖かいのが特徴です。夏になると、海側から湿潤で冷たい北東風「やませ」が吹き込むことがたびたびあり、山田湾にはやませの霧が幻想的に漂います。

海と森に囲まれた自然豊かな景観

周囲約20㎞の山田湾は、湾口が狭くつぼんだきんちゃく型で「海の十和田湖」と形容されるほど穏やかに凪ぐことが多い地形。湾内には関口川や織笠川などの河川から山間部で蓄えられたミネラル分が注ぎ込まれ、カキやホタテガイなどの格好の養殖場になっています。恵み豊かな陸中の海を象徴するように、湾内には多くの養殖いかだが並んでいます。近年では波の静かな特徴を活かして、シーカヤックやサップなどマリンスポーツの舞台としても脚光を浴びています。

船越湾は外洋に広く面し、船越半島の南東側では激しい波に浸食されて切り立った、赤平金剛や大釜崎などの海食崖が見る者を圧倒しています。また

フォーラム

その半島の付け根には、三陸鉄道リアス線の岩手船越駅があり「本州最東端の駅」の愛称で知られています。

海と森に囲まれた豊かな自然環境は、地理的な成り立ちや歴史・文化を教育や観光に活かす日本ジオパークの一つ「三陸ジオパーク」を構成。穏やかで美しい「山田湾の景観」と、２億年以上前の海の堆積物が観察できる「豊間根川上流の地層」がその中に含まれています。

山海の恵み　四季折々

町の主要な産業は水産業。親潮と黒潮がぶつかり合い、豊富な魚介類が群れる三陸漁場での沿岸漁業や養殖漁業が盛んです。11月ごろにピークを迎えるサケ漁を中心に、サバやブリ、ウニ、アワビ、クリガニなど四季折々の恵みが水揚げされ、養殖ではカキやホタテガイ、ホヤ、ワカメなどが澄みきった海の香りを届けています。

▲市場でも評価の高い殻付きカキ

◀シイタケ栽培など農林業も盛ん

町観光協会が運営し、カキの蒸し焼きなどを提供する「三陸山田かき小屋」は東日本大震災で被災したもののすぐに再建され、シーズンの11月から５月まで多くの観光客が訪れています。

内陸部では農業も広く行われ、水稲を中心に多種の野菜類を生産。肥えた土と昼夜の寒暖差が味の良い農作物を育てています。また、シイタケの原木栽培が盛んで、干ししいたけの品質の良さは全国的に高い評価を受けています。ほかにも県内有数のマツタケ産地としても知られています。

町を襲った東日本大震災　人口約４・３％が犠牲に

豊かな自然に恵まれた山田町ですが、歴史の中では幾度も大津波に遭遇してきました。古くは、平安時代の貞観11（８６９）年に発生した「貞観地震津波」、江戸時代には慶長16（１６１１）年に「慶長三陸地震津波」、その300年後の明治29（１８９６）年に「明治三陸地震津波」、その後も昭和８（１９３３）年に「昭和三陸地震津波」、昭和35（１９６０）年「チリ地震津波」。町は、そのたびに大きな痛手を負いながらも再建を果たしてきました。

過去の災害から学び、甚大な被害に遭った地区では集団で高台移転するなど、それぞれ対策を行ってきました。さらに津波を防ぐため、防潮堤を設置するなど、防災に向けたさまざまな対策を講じてきましたが、平成23年３月11日の「東日本大震災」では、三陸海岸一帯に防潮堤を越える規模の大津波が押し寄せ、大きな被害をもたらしました。

東日本大震災では、町内での最大震度は５強、町を襲った最大級の第１波は、波高約19ｍと記録されています。黒いカーテンのような高い波が押し寄せ、襲いかかるように町に海水が流れ込みました。家と家とがバリバリという音を立ててぶつかり合い、海へ引き込まれていきます。避難途中の人々にも波ががれきを巻き込みながら押し寄せ、流された車からはクラクションの音が鳴り響いていました。そこには水流に逆らうことのできない地獄絵図が町内各地で広がっていました。

津波や火災による人的被害は、死亡者数および行方不明者数が合計８２５人。町人口（平成23年３月１日時点での１万９、２７０人）の約４・３％に及びました。家屋被害は、全壊２、７６２棟、大規模半壊・半壊４０５棟、一部損壊２０２棟。低標高の沖積平野

▶焼け野原と化した町の様子（発災直後２０１１年３月26日）

などに立地した家屋が津波による浸水で面的に広く被害を受けたほか、津波を原因とする大規模な火災の発生により、浸水域以外の家屋も焼失しました。町の基幹産業である漁業関係では、震災前（平成22年３月）の登録漁船1、992隻のうちほぼ9割に当たる1、791隻の船が流失し、養殖施設や作業小屋のほとんどが壊滅的な被害を受けました。

多くの町民を亡くし、焼け野原になった光景からは、今日の町の姿は想像もつきませんでした。

10カ年の復興ステップ重ね「コンパクト」なまちづくり

「二度と津波による犠牲者を出さない」を理念に、何よりも津波から命を守る町づくりを目指し、復興に向け歩みを進めてきました。平成23年12月に策定した「山田町復興計画」では、10カ年の復興ステップを「まちづくりの基礎となる土地や基盤施設の再整備と各種活動を始動する『復旧期』」、「新たな土地への建設開始と各種活動を本格始動する『再生期』」、「町の成熟化と広域的な連携による各種活動を拡大する『発展期』」をおおむね3年ずつの間隔で設定。段階に応じた施策や事業を展開してきました。

復興計画での都市の骨格形成（まちの空間イメージ）で目指したのは、既存市街地・集落を基本にした「コンパクト」なまちづくりです。宅地整備は、既存集落とできるだけ隣接する形で高台団地や災害公営住宅を整備し、従来の地域コミュニティーのつながりを重視しました。町中心部は、現在の三陸鉄道リアス線・陸中山田駅周辺と国道45号に挟まれたエリアを「まちなか再生区域」と位置づけ、震災前は広範囲に分散していた商店や図書館、郵便局や銀行などを集約。災害公営住宅（146戸）も隣接させ、利便性を確保しています。

◀商業施設や公共施設、金融機関などが集約された「まちなか再生区域」

観光の復興で地域活性化へ『山田ファン』の拡大狙う

未曾有の災害から10年。焦土と化していた町は、インフラや住宅、公共施設などの再建が進み、道路や街並みが大きく変わりました。平成30年度には、三陸鉄道リアス線が開通し、今年度は、青森県八戸市から宮城県仙台市までの全長359㎞をつなぐ三陸沿岸道路がおおむね全線開通する見通しが示されています。町では、交通インフラの整備により増加が見込まれる「観光客」や「通過客」に感動を与え、リピーターとなる『山田ファン』の拡大に向けた観光政策に取り組み、地域経済の活性化にも力を入れています。

復興計画における復旧期を過ぎ、再生期から発展期へ差し掛かった平成27年には「観光の振興」を掲げ「山田町観光復興ビジョン策定委員会」を組織。コンサルタント業者に頼らず、観光に携わる人がワーキング委員として計画を策定しました。観光復興ビジョンの策定には、会議や専門部会のほか、勉強会を開き、観光に携わる立場からの現場の声、専門的な視点、町民による検討などを積み重ねました。翌年の平成28年度には観光協会や商工会員などをメンバーとする「山田町体験観光推進協議会」を設立。「やまだワンダフル体験ビューロー」の名称で観光客向けの体験プログラムのとりまとめなどを行い、行政と民間が連携を図りながら観光復興ビジョンに盛り込まれたプランの実現に取り組んできました。

山田湾でのシーカヤック、オランダ島上陸、漁船クルーズ、養殖いかだ見学、漁業体験などのプログラムのほか、震災語り部ガイド、そば打ち体験、野菜の摘み取り体験など、被災地であり、漁業と農業が隣り合う本町らしい多彩なプログラムを体感できます。

「また来よう」――。そんな『山田ファン』を増やすため、山田町ならではの観光を磨き上げていきます。

▶波の静かな山田湾で楽しめるシーカヤック

フォーラム

無人島で非日常の体験を オランダ島を観光の起爆剤に

江戸時代初期の寛永20（1643）年にオランダ船ブレスケンス号が山田湾に入港。水、食料を補給するために訪れた船員たちを町の人々は温かくもてなしました。その後350年の時を経て平成5年にオランダ王国との文化交流が始まりました。山田湾に浮かぶ無人島が「オランダ島」と呼ばれているのは、こうした史実がもととなっています。

▶「無人島キャンプ」の受け入れ準備を進めるオランダ島

白い砂浜があるオランダ島は「東北唯一の無人島海水浴場」として賑わっていましたが、東日本大震災で施設や遊歩道、桟橋が被災し、海水浴は休止を余儀なくされました。その後、町民や有志団体が倒木の撤去や海岸の清掃などを行い、国の復興事業により遊歩道や避難路、桟橋の整備が完了。10年ぶりの再開となった昨年の海開きは、新型コロナウイルス感染症の流行をうけ町民に限定して行われました。今年は期間のみを限定し、海水浴場を開設しています。

現在は、島を活用した体験観光を企画しており、その中の1つが「無人島キャンプ」。昨年10月に専門家などの体験キャンプが行われ、釣りや散策などのほか、町の海産物を使ったバーベキューも行われました。

ツアー客を受け入れる本格利用に向けて着々と準備が進められています。山田湾の真ん中にあるオランダ島での「無人島キャンプ」が実現すれば、他県からの集客も狙うことができ、滞在型観光の誘客の起爆剤としても期待されているところです。

ディープな魅力を詰め込む 新・道の駅を賑わいの拠点に

本町では「また来たくなる、山田町のディープな魅力が詰まった賑わいの拠点」を整備コンセプトに、新しい観光拠点施設として「（仮称）新・道の駅やまだ」の整備を進めています。三陸沿岸道路の山田インターチェンジに近く、既設の国道45号からもアクセスが容易で、観光客や通過客、地元利用客にも利便性の高い好条件の立地を生かした施設とする計画です。

◀「（仮称）新・道の駅やまだ」外観イメージ

地元客に喜ばれる施設であることを前提に、具体整備コンセプトには、①町の生鮮食品や特産品を味わい・購入できる「物流・物産の拠点」②町ならではの食べ方や遊び方を気軽に楽しめる「体験の拠点」③新規出店やイベントの企画を支援する「挑戦の拠点」④観光資源や体験ツーリズムを紹介する「情報発信の拠点」――の4つを掲げています。

復興後の町全体に波及効果をもたらす新たな施設として、令和4年度中の開業を目指し取り組んでいます。

持続可能なまちづくり進め 希望と活力ある地域社会へ

震災後、本町では、東日本大震災からの復旧・復興事業を中心にまちづくりを進めてきました。今年度は「山田町復興計画」が終了し、震災復興から新しい町づくりに舵を切る初年度となります。併せて令和3年度から令和7年度までの5年間を期間とする「第9次総合計画後期基本計画」がスタート。「個性豊かに　ひとが輝き　まちが潤う　山田町」を目標に掲げ、将来にわたり持続可能な町づくりを進めていきます。復興を遂げた町が未来を担う子どもたちへの希望とともに引き継がれるよう、地域産業の活性化と担い手確保、町内への移住促進や子育て環境の向上を図るなど、活力ある地域社会の実現を目指していきます。

山田町長　佐藤　信逸

町村 ご当地キャラじまん Vol.78

東ブロック

特産品だけじゃない！
文化・歴史を身にまとって観光大使!!

ご当地自慢のおいしいものや伝統行事を身にまとい、
体を張ってPRしているご当地キャラたちを紹介するコーナーです。
今回は、東ブロック（北海道・東北・関東）からピックアップ。

野田村イメージキャラクター
のんちゃん
岩手県野田村（のだむら）

11月11日（鮭の日）、安家川で生まれる。永遠の0歳。赤ちゃんなので、性別は“まだ”不明。川でも海でも泳げる。趣味はサーフィン。好きな人は、村出身のグラフィックデザイナー・桜庭昇氏。

1994年にデザインと愛称を公募して誕生したキャラクター。村出身のグラフィックデザイナー・桜庭昇氏のデザインによるもので、村特産品である「サケ」の稚魚をモチーフとしています。おなかがぽっこり膨らんだフォルムがかわいいと人気です。誕生から四半世紀以上経ち、村内には「のんちゃん焼き」や「のんちゃん饅頭」など、「のんちゃん」がデザインされたもの、「のんちゃん広場」や「のんちゃん公園」「のんちゃんハウス」など、名前が付けられた施設がどんどん増えています。また、「のんちゃん」柄のマンホールがあったり、LINEスタンプやぬいぐるみなどのオフィシャルグッズもあり、村民にとって身近な存在となっている「のんちゃん」。これからも村民に寄り添い、村の発展のために活動を続けていきます。

塙町観光協会キャラクター
ダリちゃん
福島県塙町（はなわまち）

町全体で「ダリア」の栽培に取り組んでいる塙町を代表するキャラクターとして誕生した「ダリちゃん」。もちろん、モチーフは町の花「ダリア」です。町内にある温泉宿泊施設「湯遊ランドはなわ」に隣接した「ダリア園」は、毎年夏から秋にかけて300種5,000株の「ダリア」が咲き誇ることで有名で、「ダリちゃん」は町の「ダリア」や「ダリア園」をPRするために活動しています。ダンスが得意なこともあり、キャラクターソング「ダリちゃんTIME」や「ダリちゃん体操」の動画も公式に公開していて、さまざまな角度から「ダリア」をアピール。「はなわのダリア祭」や町内のイベントだけに限らず、東京で開催される「ダリアの華展」や町外のイベントにも出張します。これからも、塙町と町の「ダリア」や「ダリア園」の認知度アップのため、笑顔を振りまいてがんばります。

8月7日（花の日）生まれの明るく元気な女の子。ダンスが得意で、美容のために就寝前の「ダリちゃん体操」は欠かさない。好物はダリアソフトクリームとさしみこんにゃく。チャームポイントは、たくさんの花びらとキュートな笑顔。

上三川町マスコットキャラクター
かみたん
栃木県上三川町（かみのかわまち）

誕生日、年齢は「秘密」。元気な男の子。「かみのかわ黒チャーハン」が好物。写真を撮ってもらうことが大好き。趣味は空を飛ぶ練習で、「空を飛びた～い!!」が口癖。

上三川町のイメージアップやPR活動を強化するため、キャラクターデザインと名前を公募し、誕生した「かみたん」。町の鳥「しらさぎ」をモチーフにしており、からだには町内を流れる「鬼怒川」「田川」「江川」をイメージした流れや町の花「ゆうがお」、町特産品「かんぴょう」の実が描かれています。名前は、「かみのかわ・たうん」を短くして「かみたん」と名付けられました。2013年に運用開始したデマンドタクシー「かみたん号」、緊急情報や防災・防犯情報等を配信するメールサービス「かみたんメール」、健康増進のための「かみたん体操」等、町のさまざまな事業に名前が使われていて、老若男女に人気のキャラクターです。ツイッターやフェイスブックといったSNSを活用した情報発信をしながら、町のPRのために、さまざまな活動に取り組んでいきます。

次回は、中ブロック（北信・東海・近畿）からご紹介します

随　想

随　想

しっかりと地に足をつけて持続可能なまちへ

京都府精華町長　杉浦　正省（すぎうら　まさみ）

わがまち精華町は、京都府の南西端にあり、近畿圏のほぼ中心、神南（かんな）備（び）丘陵を臨む木津川流域に位置し、西部と南部はなだらかな丘陵、東部には平坦な農地が広がり、東端には木津川が流れています。

丘陵部は、かつて山林が多くを占めておりましたが、昭和53年に関西文化学術研究都市（けいはんな学研都市）の建設が提唱されてからは、その中心地として開発が行われ、「国立国会図書館関西館」をはじめ、先進的な研究開発を推進する「けいはんなオープンイノベーションセンター（ＫＩＣＫ）」、文化・学術・研究の中核的な交流施設「けいはんなプラザ」、また、里山の風景が再現・保全された広大な敷地を有する「けいはんな記念公園」、そして、民間の産業をリードする各種最先端の研究開発施設などが立地しています。

学研都市建設が本格化した昭和60年代はじめは、人口１万６千人余りのまちでありましたが、現在では約３万７千人となり、けいはんな学研都市とともに成長、発展を遂げてきました。

現在、精華町では科学・技術、文化など、さまざまな分野の研究開発施設が集積するまちの特色を生かした取り組みとして、未来を担う子どもたちに科学を中心とした多様な「学びの機会」を提供する「科学のまちの子どもたち」プロジェクトや、サブカルチャー等の創作活動支援のための「ＳＥＩＫＡクリエイターズインキュベーションセンター」を開設するなど、けいはんな学研都市の資源を生かした地域づくりや人材育成にも取り組んでいます。

また、平成25年には、３Ｄデータや音声合成技術を活用した広報キャラクター「京町セイカ」が誕生し、町広報誌やＳＮＳ、各種イベントでの広報活動や、ユーチューバーとしても活躍しています。さらに、平成28年からは、国内最高峰で国際的にもアジア随一の規模・レベルであり、多くの来場者で賑わう国際自転車ロードレース「ツアー・オブ・ジャパン京都ステージ」が開催され、世界で活躍しているトップクラスの選手達による熱い戦いが繰り広げられています。

一方、古くから農耕が行われ、稲作中心の農業に加えて、ビニールハウスを利用しての促成栽培やそ菜栽培などの都市近郊農業が発達してきました。特にいちごの産地として有名であり、いちご狩りのシーズンには利用客で賑わいます。また、近年では新たな特産品として「せいか苺のフレーバーティー」や、京都府立大学と産学公連携事業として栽培している「洛いも」から造る「洛いも焼酎」の販売も推進しています。

私自身も農業には長く携わっており、花き栽培として花の苗作りを中心に、洛いもや野菜の栽培を行っております。自然を相手にする農業は、手間暇がかかり重労働ではありますが、収穫時には喜びもひとしおです。

農家として勤しむ一方、平成５年５月から、精華町議会議員として活動させていただくことになりました。以来、議員生活は26年４ヶ月、その間、町議会議員の皆様や、京都府町村議会議長の皆様にも支えられ、町議会議長として10年４ヶ月、京都府町村議会議長会の会長として７年７ヶ月、最後には全国町村議会議長会副会長まで仰せつかり、令和元年10月24日より精華町の代表者として町政を預からせていただいております。

しかしながら、就任以降はコロナ禍で思っていた以上に活動が出来ず、忸怩たる思いをしています。

本町では最後のクラスターであります、南田辺・狛田地区の整備も進めていかなければなりません。また、現在、京都府及び近隣二市と連携して国に提案しています、けいはんな学研都市におけるスーパーシティー構想にも挑戦したいと考えています。これからは、けいはんな学研都市の高度な都市運営を支えることができる基礎自治体としての体力が必要です。自立のまちを目指すためにも、まだまだやらなければならないことが山積しています。学研都市精華町の未来のため、これからもしっかりと地に足をつけて、さまざまな施策を進めてまいりたいと考えています。

さまざまな「集いの場」を演出いたします

東京でのイベントに最適な
絶好のロケーションを誇る全国町村会館。
かけがえのないひとときを、
上質なサービスでおもてなしいたします。

県人会など同郷者の集い、
同窓会、親睦会などの懇談会

観光 PR、移住セミナー
職員採用試験などの説明会

職員旅行・家族旅行

広さと設備が多彩な大ホールと、３つの会議室がございます。
会議・研修、パーティーなどに幅広くご利用いただけます。

和・洋食のレストランもお気軽にご利用ください

全国町村会館には、
会議室・宴会場のほかに、
ふたつのレストランもございます。
お気軽にお立ち寄りください。

レストラン「ペルラン」

レストラン ペルラン Pelerin

和食処 さいかち

和食処「さいかち」

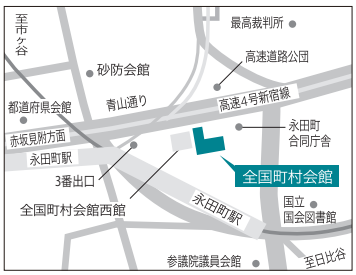
客室のご案内

SINGLE ROOM　シングル 119室

DOUBLE ROOM　ダブル 12室

TWIN ROOM　ツイン 18室

和室もございますのでお問い合わせください。
※市町村職員共済組合等の宿泊助成券がご利用いただけます。



ご予約・お問い合わせ

全国町村会館
TEL.03（3581）0471
FAX.03（3581）0220
〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号
ホームページアドレス　https://www.zck.or.jp/kaikan

●全国町村会館へのアクセス
・有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」3番出口徒歩1分
・丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」徒歩8分
・タクシー東京駅から約20分